

施設キュウリでのIPM技術

施設キュウリでは、ミナキイロアザミウマ、タバココナジラミおよびそれらが媒介するウイルス病の発生が問題となっています。そこで、有望土着天敵タバコカスミカメを中心とした生物的防除法と既存の防除技術とを組み合わせた総合的害虫管理（IPM）技術を開発しました。

IPM技術体系

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	備考	
(定植直後) ・タバコカスミカメ 3,000頭×2回/10a ・スワルスキーカブリダニ 50,000頭/10a ・天敵温存植物の設置			(1,2月) ・タバコカスミカメ 1,000頭/10a (生息密度が低い場合追加放飼)							・開口部に0.4mm目合白色または0.6mm目合赤色の防虫ネットを展張 ・天敵の温存植物としてスカエボラ、パーベナ(タピアン®)をキュウリの株間に設置(各50株/10a) ・その他害虫が発生した場合には、天敵類に影響の小さい薬剤を散布

注) ←→ : 対象害虫の発生が多い時期 <--> : 対象害虫が発生する可能性がある時期

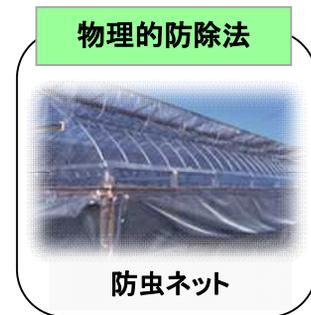
生物的防除法



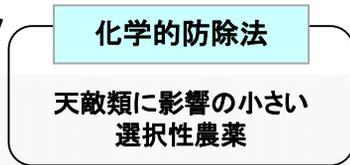
害虫



物理的防除法



化学的防除法



化学的防除法主体の体系
に比べ安定した効果!

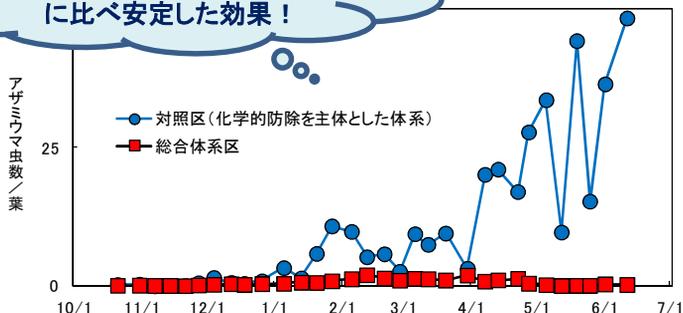


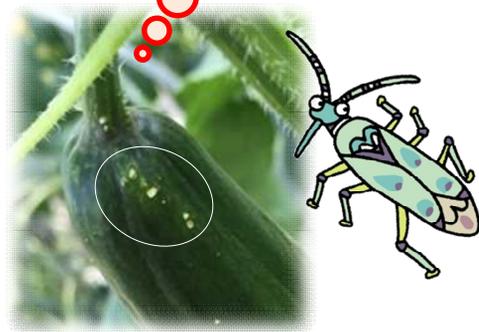
図 各区におけるミナキイロアザミウマの発生推移



図 アザミウマ類を対象とした化学農薬の延べ使用成分回数の比較

注) 実証試験実施農家での事例

タバコカスミカメが増えすぎると果実への被害が認められる場合があるので、効果のある気門封鎖型殺虫剤により他害虫と同時防除



キュウリ果実の被害